

6月12日(木)

質問者：横倉 廉幸 議員



大阪維新の会の 横倉 廉幸 です。

それでは、通告に従い順次質問させていただきます。

1. 万博への水上交通

4月の万博開幕から明日で2か月、来場者数は 600 万人を超え、増加傾向にあります。

万博会場は、水上交通によるアクセスが可能な人工島、夢洲にあり、来場者輸送のために水上交通が導入されていることは、万博を契機とした水都大阪のさらなる発展のための絶好のチャンスと考えております。

ところで、博覧会協会によると、4月13日から5月24日までの日平均の来場者数は約11.3万人で、そのうち、船舶を利用した来場者数は、日平均約200人と、わずか0.2%にとどまっています。

船舶による来場者数が低い原因、それは利用料金が高いということが主な原因と考えます。

なぜ、運賃が高くなるのか、その要因の一つとして、博覧会協会が管理・運営する夢洲北岸浮棧橋の利用料金があると思われます。

浮棧橋の利用料金は船舶運航事業者から徴収することになっており、例えば、旅客定員100人の船舶を50人の乗客が利用した場合、浮棧橋利用料金は1船舶あたり45,000円となり、1人あたり900円となります。船舶事業者は、この金額に人件費や船舶の燃料代などの必要経費を加え乗船料金を設定することになります。

ある船舶運航事業者からは、「協会管理の浮棧橋の利用料金が高いことから、乗船料金を高くせざるを得ず、船舶での利用者が伸び悩んでいる」との声もお聞きいたしております。

そこで、夢洲北岸浮棧橋の利用料金の設定の考え方について万博推進局理事にお伺いいたします。

また、万博へは船を利用し来場いただくことで、船の魅力を体験できることはもちろんのこと、海や川から見た大阪の魅力を知ること、大阪の観光にまた行こうか、という機運にもつながるものと考えます。

そこで、水上交通についてもPRの強化が必要と考えております。取組み状況について併せて万博推進局理事にお伺いいたします。

(万博推進局理事答弁)

○ 議員お示しの夢洲北岸浮棧橋の利用料金は、博覧会協会において、浮棧橋の管理料金と、来場者を浮棧橋から会場まで輸送する船シャトルバス等の施設利用料金を合算した額により設定されている。

○ このうち、浮棧橋管理料金については、大阪港周辺の平均的な綱とり費用を参考に、船舶の旅客定員に応じて、棧橋利用の基本料金を1回あたり 25,000 円～35,000 円に設定されている。

また、施設利用料金については、桜島駅シャトルバスの利用料金を参考に、1 人あたり 300 円に設定されており、実際に利用した旅客人数分を徴収している。

加えて、これらの料金には繁忙期や閑散期、利用回数で料金を変動させるダイナミックプライシングが導入されている。

○ 次に水上交通の PR については、博覧会協会をはじめ交通事業者などと連携し、WEB サイトやパンフレット、府政だより等により広く周知を行ってきたところ。万博開幕後は、実際の船上からの眺望など各定期航路の特色等の紹介や、府市で発信している「明日の万博情報」で水上交通の紹介を行っている。

○ 引き続き、関係者と連携しながら、SNS の活用等により PR 強化に努めるなど、水上交通の利用促進に取り組んでいく。

私は、万博開催に際し当初から、人工島である夢洲へのアクセスとして船舶を使うことは、会場への脆弱なアクセスに効果のある取り組みと訴えてきました。

協会においては、来場者が船舶を利用しやすい料金設定や舟運業者が参入しやすい方策など、課題解決に向けて検討することが重要であると考えます。

たとえば、浮棧橋利用の管理料金などは、平常の利用料金を参考にするのではなく、万博開催時のアクセスの一環として使用するという考えの元で、特別な配慮が必要と考えます。

万博後半の来場者数が増加するとの予測もあり、来場者が水上アクセスを利用することで、東口ゲートに集中する来場者が、少しでも解消されることとなります。早急に取り組んで頂くことを要望いたしておきます。

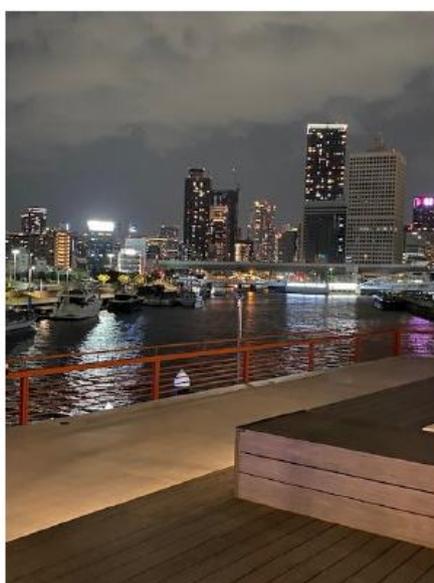
2. 中之島ゲートにおける川口地区の歴史の保存活用について

本年4月、私の地元の西区川口地区にオープンした「中之島ゲートサウスピア」は、バイエリアと市内を船で結ぶ乗換ターミナルであり、万博、そして、その先にあるIRの開業に向け、水都大阪の新たなにぎわいの拠点となっていくものと大いに期待しています。



1

この写真はサウスピアに出来たレストランから安治川上流の中之島方面を見た写真です。



2

次は同じく夜景です。このように素晴らしい景色を見ながら、飲食を楽しむことができます。ぜひ、一度中之島ゲートサウスピアに来ていただきたいと思います。

この川口地区は、江戸時代には全国からの物産が舟運により集積され、大阪が天下の台所となった重要な役割を果たした場所でもあります。

この写真は、川口を中心とした江戸時代末期の船舶の状況をジオラマに表したもので、ご覧のように、まさに出船千艘・入船千艘の様子を表しております。



3

また、明治維新にはここが大阪港として開港され、大阪税関の前身である「川口運上所」が設置されました。

同時に外国人居留地も整備され、いま関西にある多くのキリスト教系の学校がこの場所から誕生しています。

明治7年には、この川口居留地の東を流れる木津川の対岸、江之子島に大阪府庁舎が建設され、大阪の政治、行政の中心地となった場所でもあります。

さらには、大正15年に大阪府庁が現在のこの地、大手前に移転した後は、大阪の工業発展の要となる工業奨励館が設置され、大阪が東洋のマンチェスターと呼ばれる工業の発展に大きく寄与しました。

まさに、この西区川口地域は、江戸時代から昭和にかけて大阪の発展に大きな役割を果たした場所です。

現在、中之島ゲートのサウスピアでは、府が、船着場とにぎわい施設を運営する民間事業者と連携して、この地域の歴史を紹介する石碑や川口居留地の当時の様子を再現したジオラマを設置するなど、歴史的価値の保存と活用に取り組んでいただいています。現状では、その歴史的価値を十分に伝えきれているとは言い難く残念に思っています。



4



5

大阪の発展の足跡を後世に伝えていくためには、川口地区にまつわる多くの資料等も活用し、この地区の歴史や魅力の発信にさらに取り組むべきだと考えますが、府民文化部長にご所見をお伺い致します。

(府民文化部長答弁)

○ 中之島ゲートサウスピアにおいては、海と川を船でつなぐにぎわい拠点としての機能を発揮できるよう取り組むとともに、立地する西区川口地区が大阪の発展に重要な役割を果たした場所であることを踏まえ、今年度は、地元や施設の運営事業者等と連携し、地域の歴史や魅力などを積極的に発信していくこととしている。

○ 具体的には、大学等が保有している貴重な文献等を活用し、川口地区の今昔などをわかりやすく紹介したPR動画を作成することとしており、府ホームページでの紹介だけでなく、サウスピアに新設する大型サイネージでの放映、さらには、地域の小学校の課外活動にも活用いただく予定。

○ 引き続き、サウスピアを訪れる観光客をはじめ、多くの方々に川口地区の歴史や水都大阪の魅力を知っていただけるよう、取り組みを進めてまいります。

中之島ゲートサウスピアができて、地元とも連携しながら地域の歴史の発信に取り組んでいただいていることは理解しましたが、川口地区の歴史的価値の保存と活用については、私としては、まだまだ物足りないと感じています。

先ほども申し上げましたが、この地域は江戸時代には「天下の台所」、明治時代には「外国文明の発信地、そして、大阪の政治行政の中心地」、また、昭和に入り大阪が「東洋のマンチェスター」との異名をとるほどの工業の発展に寄与した工業奨励館を設置するなど、大阪の発展の礎となった場所であります。

このため、現在、サウスピアにある記念碑やジオラマに加え、大学や税関各所にある貴重な資料を集約するなど、歴史を網羅的に展示するような「歴史資料館」

を、地域の皆さんの協力も得ながら是非とも作っていただくよう強く要望しておきます。

吉村知事、場所としては、サウスピアに隣接した旧大阪関税があった国有地があります。「歴史資料館」設置の絶好の候補地と考えますので、よろしくお願い致します。

3. がん検診受診率向上に向けた取組み

がんは我が国における死因の第 1 位であり、今や 2 人に 1 人はがんになり患する時代となっています。

大阪府内においても年間約 7 万人の方々が新たにがんになり、2 万 6 千人余りの方が亡くなるなど、府民の健康にとって大きな脅威となっています。

しかし、今、がんは早期に発見・治療すれば治る病気と言われております。

私もちょうど 10 年前になりますが見つけ、がんが早期発見できた為、再発もなく元気に過ごすことができています。

実は、私もがん検診など健康診断には全く無関心でした。

しかし、私の父が 68 歳で亡くなったことから 68 歳になった時には健康診断を受けるつもりでした。

ちょうど、68 歳の誕生日の一か月前、近くの医院に行ったところ、がん検診を受けませんかとお誘いがあり、それならと思い切って受診することにしました。何も無いと思っていたところ、胃がんが見つかり胃の三分の二を切除しました。

幸い、早期発見のために他への転移もなく、また抗がん剤も使うことなく、輸血もなく、無事手術を終えることが出来、10 日間の入院で退院しました。不思議なことに、その手術日は私の 68 歳の誕生日でした。

まさかがんになるなんて、多くの方がそう思っていると思います。

それだけに、がん検診は重要です。

がん検診の費用は、一部を公費で負担しており、無料で受診することが可能な市町村もあります。

また、受診促進を図るため、土日検診などの受診環境整備も進んでいます。

府においても、広く府民に対してがん検診の受診率向上に向けた啓発を行うとともに、子宮頸がんや乳がん重点を置いた検診の PR 動画を作成し、若い世代へがん検診の重要性を呼びかけたり、従業員が積極的にがん検診を受診できるよう中小企業の経営者を対象としたセミナーを国と連携して開催するなど、ターゲットを絞った取組みにより、受診率は一定向上しているものの、残念ながら全国と比較すると依然低位であります。

受診しない理由は色々あると思いますが、私は、がん検診の重要性が分かっていないことが問題であり、がん検診に関心を持ってもらうことが必要と考えています。

現在、開催中の大阪・関西万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」。このことから、今後、府民の健康意識の高まりが期待されるこの機会にがん検診の受診率の向上に向けて、取り組んでほしいと思いますが、健康医療部長にお伺い致します。

(健康医療部長答弁)

○ 本府では、がん検診実施主体である市町村において、受診しやすい環境整備が進み、受診率は年々向上しているものの、議員お示しの通り、依然として全国と比較して低い状況。直近の調査では、受診が進まない理由の一つに「検診そのものを知らない」等が挙げられており、がん検診に関する無関心層等に対するさらなる周知啓発が必要と認識。

○ このため、今年度は、市町村とも連携しながら、YouTube などの SNS 等も含めた様々な広報媒体を活用した周知啓発に、これまで以上に取り組んでいく。

加えて、特に無関心層に対して、興味を持っていただけるよう工夫をこらしたイベントをこの秋に開催するとともに、イベントの内容については、がん検診の対象年齢層に向けて SNS 等を活用し、効果的に情報発信を行う予定。

○ これらの取組みを通じて、がん検診の重要性についての理解を深め、受診に向けた府民一人ひとりの健康に対する意識や行動変容を促すことにより、受診率の底上げを図ってまいります。

3年に一度調査される「国民生活基礎調査」の2022年がん検診受診率では、大阪のがん検診受診率は、47都道府県中、「胃がん43位、大腸がん・乳がん42位、肺がん45位、子宮がん39位」と低迷しています。

「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとした万博の開催地である大阪の威信にかけても、わが国の死因の第一位であるがんの早期発見につながる検診率向上に全力を挙げて頂くことを願ひまして、私の一般質問を終わります。



ご清聴ありがとうございました。